

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善(例)

【学 年】 小学校第5学年（現行学習指導要領では6学年）

【単元名】 速さ（7時間扱い）

【育成する資質・能力】

〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕
C(2)ア (7) 速さなど単位量あたりの大きさの意味及び表し方について理解し, それを求めること。	C(2)イ (7) 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し, 目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し, それらを日常生活に生かすこと。

【主な学習活動と留意点】

前単元からのつながり: 単位量あたりの大きさを用いて, 目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察した。(5年)

働かせる見方・考え方: 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し, 目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察すること。

段階	学習活動(時間)	留意点
単元の見通しをもつ	1 「速さ」について既習を出し合い, 単位時間あたりに進む道のりや単位距離あたりにかかる時間で速さを比べる。(1)	<p>学習内容の動機付けをする場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞「速さ」について知っていることや「速さ」からイメージすることを出し合う場面を設け, 数値化する必要感をもてるようにする。 ☞速さについて調べていこうとする単元の目標を設定できるようにする。
	速さについて調べていこう。	
問題解決を通して, 知識・技能を学ぶ	2 道のりと進んだ時間が分かっているとき, 速さの求め方を考える。(1)	<p>知識・技能を習得する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞速さの意味や単位量あたりの数量の大きさに基づいて考えるようにする。 ☞数直線図を手掛かりに, 二つの数量の関係を捉えられるような工夫をする。
	3 速さと時間が分かっているとき, 道のりの求め方を考える。(1)	
知識・技能を活用する	4 速さと道のりが分かっているとき, 時間の求め方を考える。(1)	<p>知識・技能を活用する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞速さの意味に基づき, 単位間の関係を考察する場を位置付ける。 ☞目的に応じて単位を選択したり, 単位を変えたりする必要を実感できる場面を設定する。 ☞身の回りから, 時速, 分速, 秒速が使われている場面を見つける活動を取り入れ, 日常生活との関連を図るようにする。
	5 分速で表された速さを, 時速に直す方法を考える。(1)	
	6 3つの単位量で表された速さの単位をそろえて, 速さを比べる方法を考える。(1)	
	7 本単元の学習内容を振り返り, 学んだことを活用する。(1)	

次単元へのつながり: 割合(5年, 基にする量と比べる量の関係)